



8月17日(月)

寄贈のお礼

「口元・表情が見える「見えマスク」」

N P O法人西部ろうあ仲間サロン会様から8月17日(月)、口元・表情が見える透明マスク「見えマスク」を30枚寄贈いただきました。

見えマスクは透明なので、聴覚に障がいがある人にとって重要な、相手の表情や口元の動きがよく分かります。

寄贈いただいたマスクは、町内の小中学校で英語や国語などの語学学習を中心に活用させていただきます。

N P O法人西部ろうあ仲間サロン会様、ありがとうございました。



▲自由研究参観日で見えマスクを使う二部小学校長(9月2日)



▲口元・表情が見える透明マスク「見えマスク」

8月20日(木)

迷って楽しんで

「井澤さん家族が園児へヒマワリ迷路をプレゼント」

ふ

たば保育所の年長児が

8月20日(木)、伯耆町上細見のヒマワリ畑にできた迷路に挑戦しました。

この迷路は、園児がヒマワリ畑の見学に来ると聞いた井澤淳一さんとご家族が、子ども

たちに楽しんでもらおうと企画。家族総出で一晩かけ、草刈機で迷路を作りました。迷路には行き止まりや、うさぎやねずみなどの看板が所々に隠れていて、子どもたちが楽しみながら進めるような仕掛けが施されていました。

園児らは、自分の背丈ほどあるヒマワリ畑の中に作られた迷路を見るなり大喜びで、「うさぎ見つけた!」「行き止まりだ!」など歓声をあげながら、ゴールを目指しました。園児は「ヒマワリがきれいだった」「行き止まりがあって楽しかった」と話しました。迷路を作った井澤さんは「子どもたちの喜ぶ顔が見られて嬉しい」と話しました。



▲子どもたちはヒマワリ迷路に大喜び

9月3日(木)

戦後75年、

遺族代表が不戦の誓い

「令和2年度伯耆町戦没者追悼式」

伯

耆町戦没者追悼式を9月3日(木)、農村環境改善センターの多目的ホールで開催しました。

この式は、戦争の犠牲者に追悼の意を捧げ、戦没者遺族の労苦に敬意を表するため毎年開催しており、例年100人程度が参列します。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため参列者を制限し、遺族は町遺族会の代表の方をはじめ6人で執り行いました。

6人の参列者は戦没者へ黙とうを捧げ、1人ずつ献花しました。

遺族代表として野坂弘道さんは追悼の辞で「最愛の人を失った悲しさ、寂しさ、辛さは一生忘れがたい。二度とあの過ちは繰り返さない」と、戦後75年の節目を迎え、不戦の誓いを新たにしました。



▲参列者は戦没者の冥福を祈り、黙とうを捧げた